

八福の教え マタイによる福音書 5:1-12

1. この群衆を見て、イエスは山に登り、おすわりになると、弟子たちがみもとに来た。そこで、イエスは口を開き、彼らに教えて、言われた。(5:1-2)
 - a. この前の章ではイエスは教え、宣べ伝え、癒しを行ない、大ぜいの人々がイエスのもとに集まっていました。このような流れの中でイエスは教え始めます。
 - b. イエスの教えは弟子たちに向けられたものですが、その場にいる群衆も聞いていました。その教えはイエスに従う決心をした者のみならず、真実、愛、人生の意味、意義、目的、そしてたましいが奥深く切望するものを求めている人すべてを惹きつけたことでしょう。

2. 「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。悲しむ者は幸いです。その人たちは慰められるから。柔和な者は幸いです。その人たちは地を受け継ぐから。義に飢え渴く者は幸いです。その人たちは満ち足りるから。あわれみ深い者は幸いです。その人たちはあわれみを受けるから。心のきよい者は幸いです。その人たちは神を見るから。平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもとよばれるから。義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。(5:3-10)
 - a. イエスの口からは繰り返し「幸いです」という言葉が語られます。これはただの「幸せ」ではなく、内面的、霊的、永続的な幸せです。
 - b. これはすばらしい神とその御国の啓示です。神は私たちの祝福を願っておられるのです。神は私たち一人一人にその神の御思いを知ってほしいと願っておられるのです。イエスは近づきつつある御国について解き明かしをされます。
 - c. 神が重きを置き報いてくださる3つのエリアについてイエスは語られます。内なる性質(心の貧しい者、悲しむ者、義に飢え渴く者、心のきよい者)、他人に対する態度(柔和な者、あわれみ深い者、平和をつくる者)、そして迫害に会うまでにイエスに従う者。

3. わたしのために人々があなたがたをののしり、迫害し、ありもしないことで悪口を浴びせるとき、あなたがたは幸いです。喜びなさい。喜びおどきなさい。天ではあなたがたの報いは大きいから。あなたがたより前にいた預言者たちを、人々はそのように迫害したのです。(5:11-12)
 - a. イエスの側を歩み、イエスと親密になるとそのために嫌われると言われますが、私は実際にはそのような人はあまりいないと思います。もしそのような理由から誰かがあなたを嫌っていると思ったら、あなたの性格がこの教えの中で言われている性質と一致しているかどうか確認してみてください。
 - b. 迫害に会い失望している人たち。迫害には限りがあり、神は祝福を約束しておられます。神はあなたを愛しておられ、あなたにとって最も良いものを与えたいと願っておられます。